

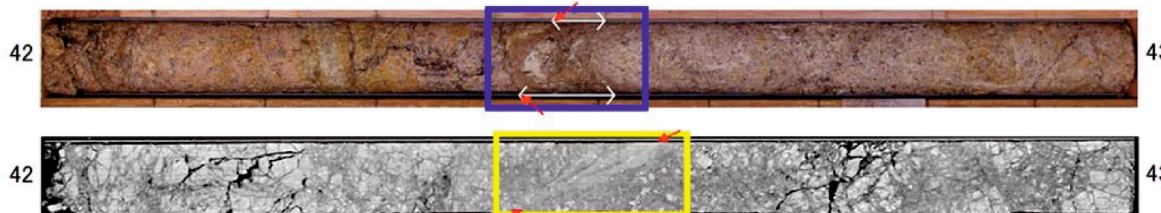
H27-B-1 深度42.41~42.49m 最新活動面の深度 (No.32) を変更

- 従前提示していたデータでは薄片観察資料に最新活動面の深度を「42.43m」と記載していたが、以下のことから、最新活動面の深度を「42.43m」から「42.41m」に変更する。
- 当初のコア観察では、深度42.43mを主せん断面としていたが、深度42.41mのせん断面の直線性も同程度（コアではどちらも波打っている）であったことから、CT画像でより直線的に見える深度42.41mを最新活動面に認定した。
- 従前提示していたデータの最新活動面の深度は、CT画像で認定した深度「42.41m」を最新面認定以降の作業に伝達出来ていなかったため、その後の条線観察、薄片観察を深度「42.43m」で実施してしまった。

最新活動面認定根拠 (H27-B-1 深度42.41~42.49m)

- 肉眼観察では、最新活動面が細粒部の上端(深度42.41m)か下端(深度42.43m)かを判断できないため、CT画像を利用した。
- CT画像では、より直線的であることから、深度42.41mのせん断面を最新活動面に認定した(認定基準c)。

コア写真

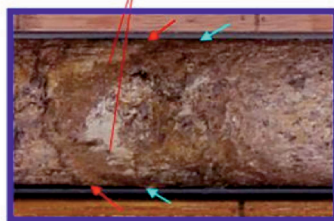


凡例

← → 破砕部範囲※
※: 写真上は白色で記載

↓ 最新活動面

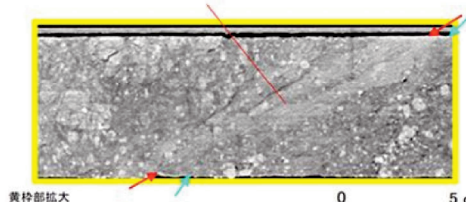
深度42.41mの面(赤矢印)、深度42.43mの面(水色矢印)とも同程度に波打っている



青粒部拡大



CT画像では深度42.41mの面(赤矢印)に直線的な低密度のゾーンが見られる



黄粒部拡大



凡例

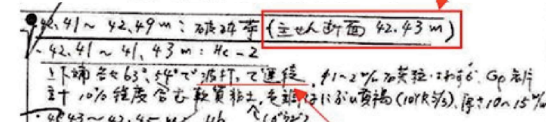
↓ 最新活動面

↔ 最新活動面の候補とした面

※コア観察カードの主せん断面はコア観察者の記載した最新活動面の深度(見立て)である

最新活動面※の記載

該当箇所のコア観察カード



面の直線性・連続性の記載

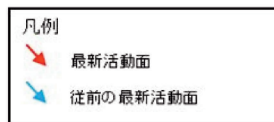
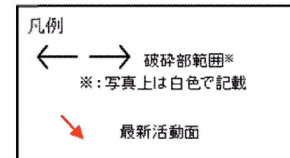
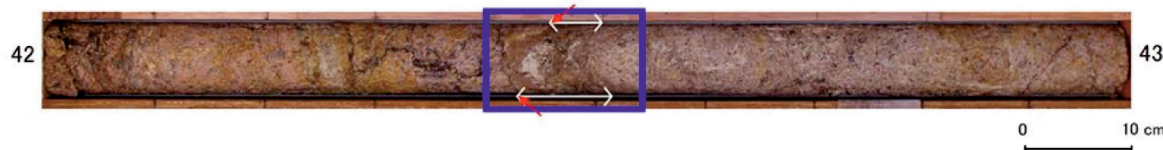
H27-B-1 深度42.41~42.49m 最新活動面の深度 (No.32) を変更

- 従前提示していたデータでは薄片観察資料に最新活動面の深度を「42.43m」と記載していたが、以下のことから、最新活動面の深度を「42.43m」から「42.41m」に変更する。
- 当初のコア観察では、深度42.43mを主せん断面としていたが、深度42.41mのせん断面の直線性も同程度（コアではどちらも波打っている）であったことから、CT画像でより直線的に見える深度42.41mを最新活動面に認定した。
- 従前提示していたデータの最新活動面の深度は、CT画像で認定した深度「42.41m」を最新面認定以降の作業に伝達できていなかったため、その後の条線観察、薄片観察を深度「42.43m」で実施してしまった。

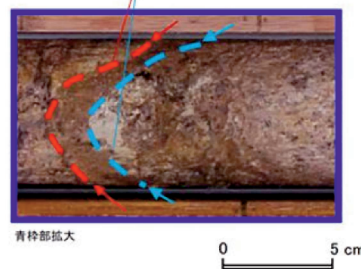
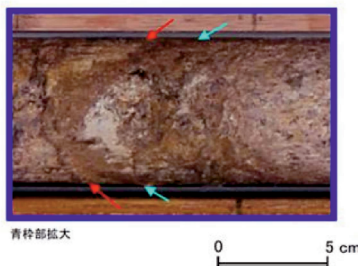
最新活動面認定根拠 (H27-B-1 深度42.41~42.49m)

- 肉眼観察では、最新活動面が細粒部の上端(深度42.41m)か下端(深度42.43m)かを判断できないため、CT画像を利用した。
- CT画像では、より直線的であることから、深度42.41mのせん断面を最新活動面に認定した(認定基準c)。

コア写真



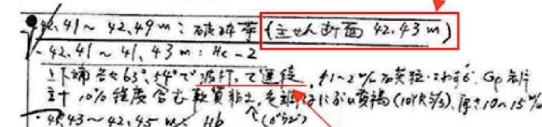
深度42.41mの面(赤矢印)、深度42.43mの面(水色矢印)とも同程度に波打っている



※コア観察カードの主せん断面はコア観察者の記載した最新活動面の深度(見立て)である

最新活動面*の記載

該当箇所のコア観察カード



面の直線性・連続性の記載

H27-B-1 深度42.41~42.49m 最新活動面の深度 (No.32) を変更

- 従前提示していたデータでは薄片観察資料に最新活動面の深度を「42.43m」と記載していたが、以下のことから、最新活動面の深度を「42.43m」から「42.41m」に変更する。
- 当初のコア観察では、深度42.43mを主せん断面としていたが、深度42.41mのせん断面の直線性も同程度（コアではどちらも波打っている）であったことから、CT画像でより直線的に見える深度42.41mを最新活動面に認定した。
- 従前提示していたデータの最新活動面の深度は、CT画像で認定した深度「42.41m」を最新面認定以降の作業に伝達出来ていなかったため、その後の条線観察、薄片観察を深度「42.43m」で実施してしまった。

最新活動面認定根拠 (H27-B-1 深度42.41~42.49m)

- 肉眼観察では、最新活動面が細粒部の上端 (深度42.41m) か下端 (深度42.43m) かを判断できないため、CT画像を利用した。
- CT画像では、より直線的であることから、深度42.41mのせん断面を最新活動面に認定した (認定基準c)。

コア写真



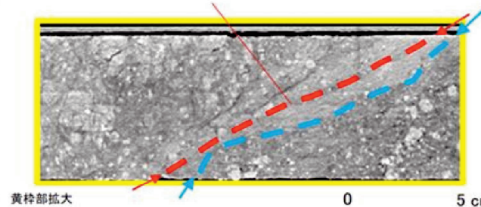
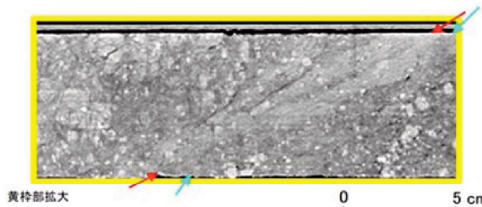
凡例

← → 破砕部範囲*

※: 写真上は白色で記載

↘ 最新活動面

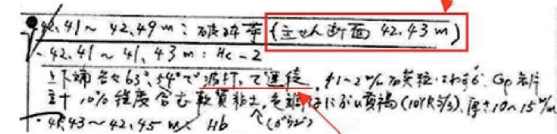
CT画像では深度42.41mの面 (赤矢印) に直線的な低密度のゾーンが見られる



※コア観察カードの主せん断面はコア観察者の記載した最新活動面の深度 (見立て) である

最新活動面*の記載

当箇所のコア観察カード



面の直線性・連続性の記載

凡例

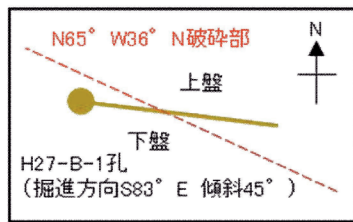
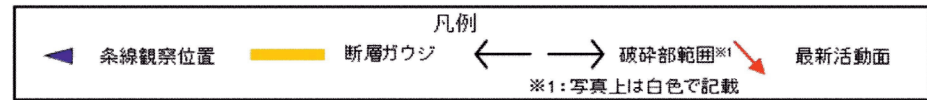
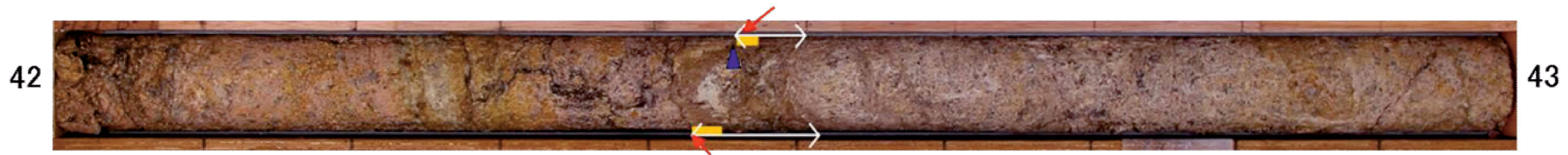
↘ 最新活動面

↙ 最新活動面の候補とした面

H27-B-1 深度42.41~42.49m 最新活動面の深度 (No.32) の変更に伴い、条線方向 (No.33) を変更

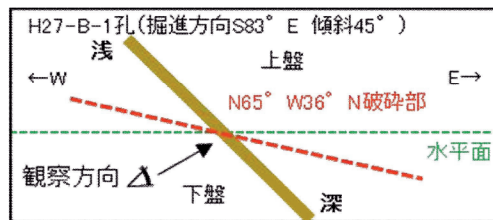
- H27-B-1孔 深度42.41mの断層面の走向・傾斜はN65°W36°Nであり、条線観察は下盤側から実施している。

コア写真



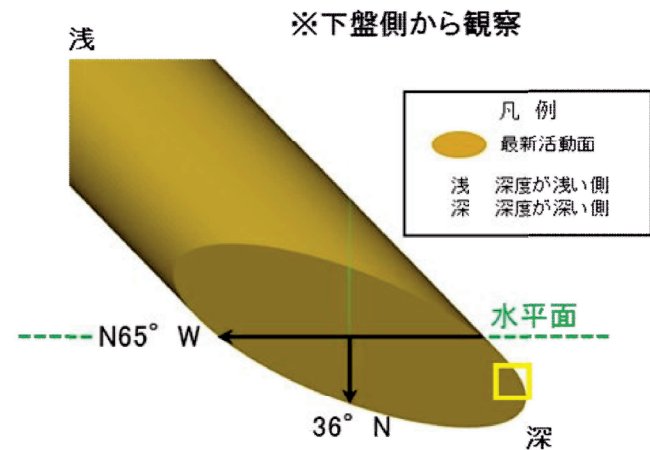
- ボーリングは掘進方向S83° E, 傾斜45°で掘削している。
- 破碎部の走向・傾斜はN65° W36° Nであり、ボーリングと破碎部の平面的な位置関係は左図のようになる。
- 破碎部は北東傾斜であることから、南西側が下盤、北東側が上盤となる。

図1 H27-B-1孔位置平面図(模式図)



- ボーリング(掘進方向S83° E, 傾斜45°)と破碎部(走向・傾斜N65° W36° N)をボーリング孔沿いの断面図で示すと左図のようになる。
- ボーリング孔の浅い側が上盤、深い側が下盤となる。

図2 H27-B-1孔を通る断面図(模式図)



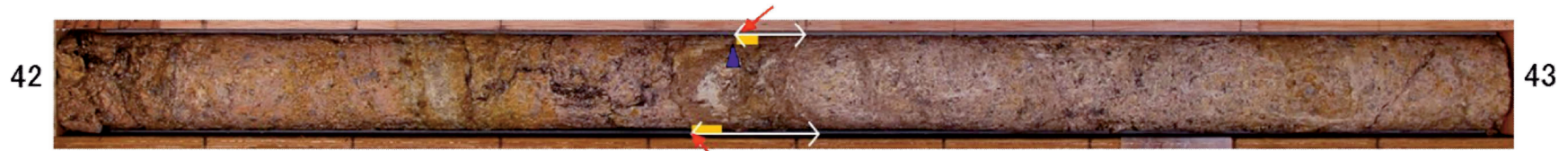
※図2で示した観察方向から、最新活動面に正対して描いた3次元的な図

図3 最新活動面と走向・傾斜の関係図

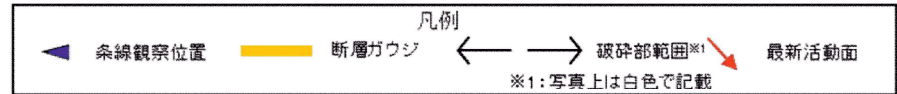
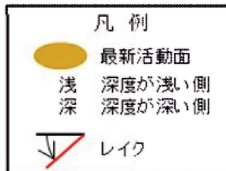
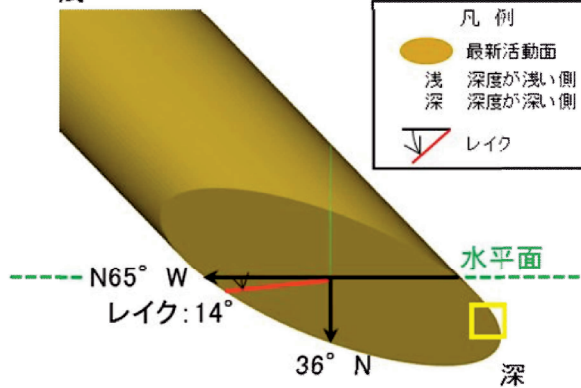
H27-B-1 深度42.41~42.49m 最新活動面の深度 (No.32) の変更に伴い、条線方向 (No.33) を変更

- H27-B-1孔 深度42.41mの断層面の走向・傾斜はN65°W36°Nであり、14Rの条線が認められる。

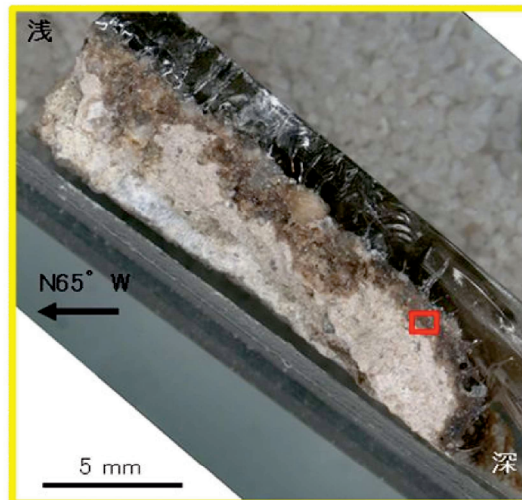
コア写真



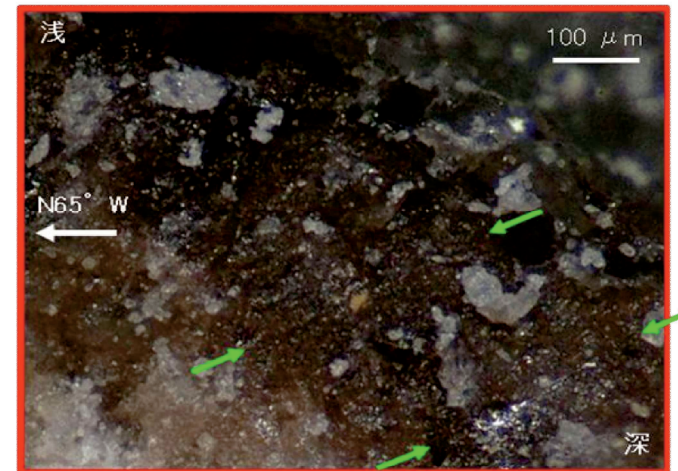
※下盤側から観察
浅



・前頁の図3に、計測した条線値を走向・傾斜等を用いて補正したレイクを赤線で表示している。
・下盤側から最新活動面を見た模式図のため、レイクがL方向に描かれているが、数値は上盤側から見た14Rとなる。



条線観察位置拡大



赤枠内拡大

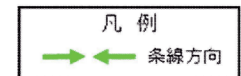


図4 最新活動面と走向・傾斜、条線の関係図

H27-B-1 深度42.41~42.49m 最新活動面の深度 (No.32) の変更に伴い、条線方向 (No.33) を変更

- 条線観察位置が最新活動面であることを残試料を用いて確認した。

コア写真



凡例
 ← → 破砕部範囲※
 ※: 写真上は白色で記載
 ↘ 最新活動面

研磨片写真(横から)



凡例
 ▲ 試料切断方向

条線観察位置



凡例
 ▲ 条線観察位置

研磨片作製位置



青枠部拡大
 0 5 cm

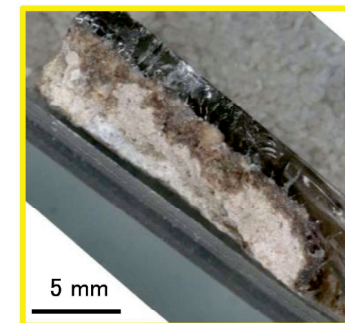
凡例
 ↘ 最新活動面

試料切断面



凡例
 ↘ 最新活動面

条線観察位置拡大



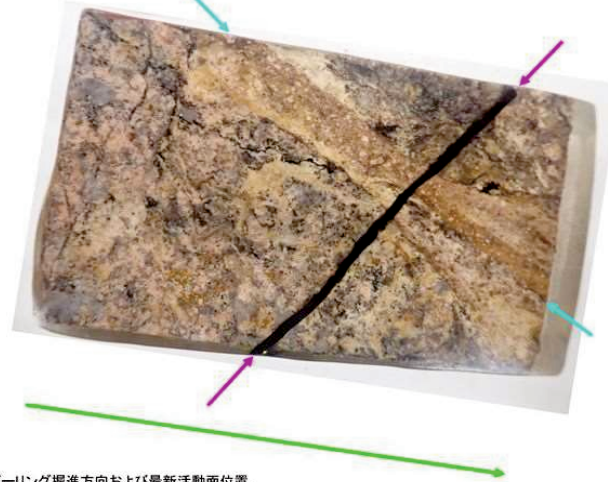
黄枠部拡大

H27-B-1 深度42.41~42.49m 最新活動面の深度 (No.32) の変更に伴い、薄片試料 (No.35-1) を再作製

- 既存の薄片試料の作製位置を確認したところ、深度42.43mのせん断面で作製されていたことから再作製した薄片試料の観察結果に変更する。
- 再作製した薄片試料の作製箇所については、試料切断方向が正しい (最新活動面に直交で、かつ、条線方向に平行) ことを確認している。
- 右の図はボーリングの掘進方向、最新活動面、試料切断面の正しい位置関係を図にしたものである。正しい位置関係とは、「試料切断面は最新活動面に直交で、かつ、条線方向に平行」の条件を満たすものである。試料で再現した3つの位置関係が図と相違ないことから正しく切断されていると判断した。(条線は最新活動面上で確認されているため、本ページでは表現されていない。)

試料切断方向確認資料 (H27-B-1孔 深度42.41m)

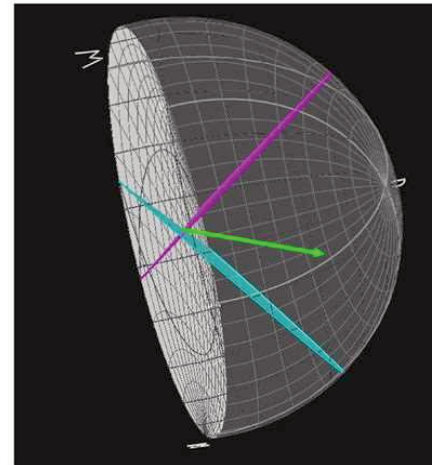
研磨片写真



ボーリング掘進方向および最新活動面位置、試料切断方向については、コア写真を利用してその位置が適切であることを確認した。



ボーリングの掘進方向、最新活動面、試料切断面の関係を3次的に示した図



ステレオネット入力値は「3.ステレオネット入力値一覧」を参照
 なお、ボーリング掘進方向についてはStrike=97, Dip=45を入力

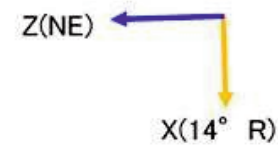
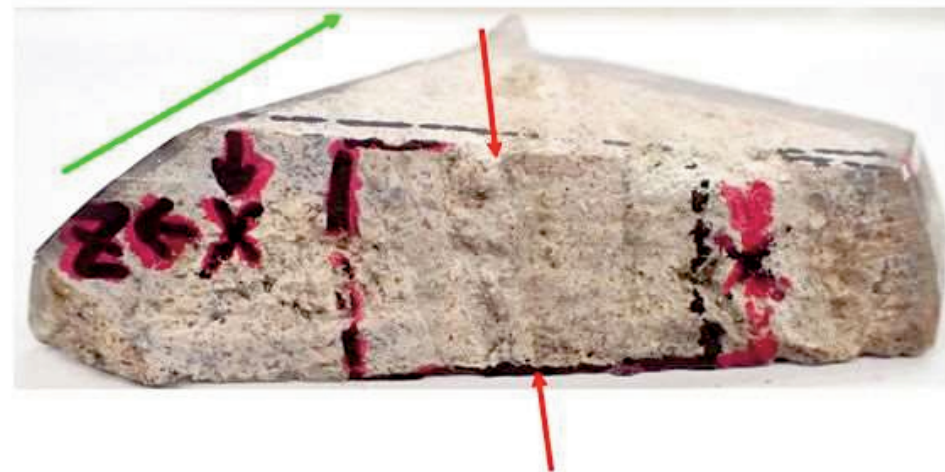
H27-B-1 深度42.41~42.49m 最新活動面の深度 (No.32) の変更に伴い、薄片試料 (No.35-1) を再作製

- 再作成した薄片試料の作製箇所について、試料の切断方向を確認し、下記の試料切断面写真に示したZ方向、X方向が正しいことを確認した。
- 右の図はボーリングの掘進方向、最新活動面、試料切断面、X方向、Z方向の正しい位置関係を図にしたものである。正しい位置関係とは、「試料切断面は最新活動面に直交で、かつ、条線方向に平行」の条件を満たすものである。試料で再現した5つの位置関係が図と相違ないことから正しく切断されていると判断した。

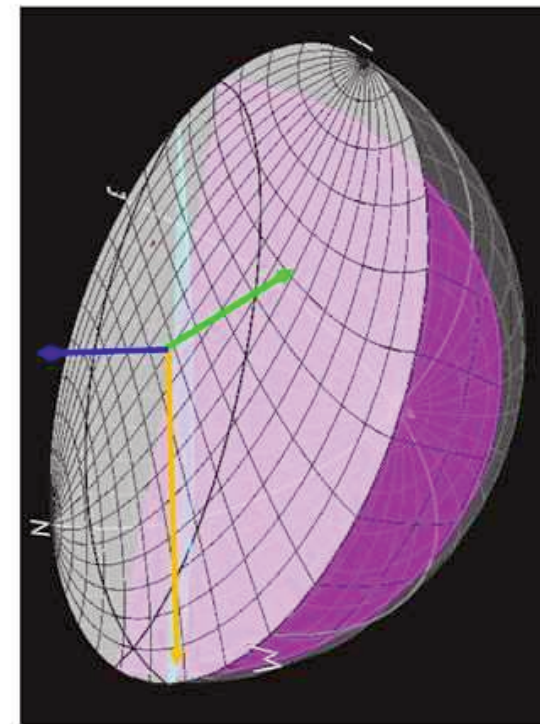
試料切断面方向確認資料 (H27-B-1孔 深度42.41m)

・薄片作製位置は、肉眼観察により認定した最新活動面に沿って最も細粒化した部分を含み、試料の人為的な乱れのない箇所であることを確認した。

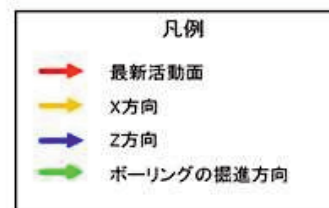
試料切断面写真



ボーリングの掘進方向、最新活動面、試料切断面の関係を3次元的に示した図



ボーリング掘進方向および最新活動面位置、試料切断方向については、コア写真を利用してその位置が適切であることを確認した。



5cm



X: 条線方向(下向きを正とする)
Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)

ステレオネット入力値は次ページを参照
なお、ボーリング掘進方向についてはStrike=97, Dip=45を入力